

ぐんまフラワーパーク とりやま じゅんこ
 ガーデンコンテスト 受賞者 鳥山 順子 氏
 嬭恋村大字鎌原（三井の森）在住

嬭恋村に移住して14年になる私の庭は1,220mと標高の高い所にあり、初めの3年程は-18度にもなる冬の寒さ対策や草花が成長する為の土作り、土地に合った植物を探し求める日々でした。十分に吟味して選んだはずなのに、なかなか良い結果が得られず何度ため息をついた事か数え切れませんでした。そんな中で一番確かなアドバイスは先人達の経験談でした。折に触れ貴重なお話をお聞きしながら、今日まで忙しくも楽しく勉強させて頂きました。

月日が経ち今、緑濃い山の中にある庭でも浮く事もなく、また埋もれる事のない穏やかなガーデンになりつつあると感じられる様になり嬉しく思っております。

2016年に浅間高原オープンガーデン推進協議会が発足し、毎年5月末から7月初めに延べ40件近くの個人の庭が解放されます。気温差や土質の違いがある個々の庭ですがその土地に合った庭造りがされていて、いつ巡っても新たな発見があり勉強になる事が沢山あります。

又、庭が仲介となり色々な分野の方々と知り合う機会も増え会員皆で新しい事に積極的に参加して見聞を広める等良い刺激を頂いております。今年も春が訪れまた美しい村内を巡ることができるのを楽しみにしています。



▶美しく成長した、鳥山氏の庭

筑波大学 生命環境系 かがみじょう たかし
 教授 博士（農学） 上條 隆志 氏

浅間山のテンカラ

“テンカラ”と聞いて何を想像しますか？樹木や林業の研究者に聞くと、それなりの割合で答えが返ってくると思っています。それは、“天然カラマツ”です。そして、天然カラマツは、浅間山をはじめ富士山などの新しい火山、山が崩れた跡地など、一度荒廃した土地に生育します。林業的にはカラマツは有用樹種であり、国内の生産量（伐採した量になります）は、スギ、ヒノキにつく第3位です。そして、浅間山のような新しい火山でなく、普通の山で私たちが見るカラマツは、ほとんどが人工的に植えられたものです。たとえば、北海道にはカラマツはもともと分布していません。ですので、全てがもともと本州産です。もちろん、北海道で育った本州産カラマツの子孫はありますが。

人は、興味の対象（研究者なら研究対象）のルーツを知りたくなります。カラマツの人工林を見れば、そのルーツ、すなわち“テンカラ”を見たいのです。浅間山のカラマツの紅葉（黄葉）は見事です。しかし、それ以上に私や研究者にとって魅力的なのは、写真のように、火山噴出物の上に生育する姿そのものです。

カラマツは陽樹なので、カラマツ人工林やミズナラなどの広葉樹林の中では子孫（稚樹）はほぼ全く見られません。浅間山の“テンカラ”は、噴火で破壊された森林が再生されるプロセスの中で延々と世代を重ねてきた樹々なのです。



▶黄葉した浅間山のテンカラ



あさまびと

A S A M A - B I T O



地域の成り立ちから、地球の成り立ちを知る
 SDGs × ASAMA

特集：春の草木花を見つけよう



春をつげる花『福寿草』

雪が溶け始めると野山や庭先で真っ先に黄色い顔を出してくれる花です。標高900m地点でも2月中旬には咲いてくれます。福を招くというおめでたい名前から親しみをもたれています。この福寿草のように花々には、私たちのくらしと結びついている花がたくさんあります。さあ野山に出て花々に会いに行きましょう。



フキノトウ（西吾妻の方言では「ジャホージ」と呼ばれています）

ジオパークからのお知らせ



◀【ごあいさつ】1月から、地域おこし協力隊としてジオパークに着任した伊東杏奈（いとう あんな）です。今後は「あさまびと」の編集にも携わります。頑張りますので、これからどうぞ、よろしくお願い致します！



◀1/9（日）に、ジオパークにて「マルシェ」が開催されました。様々な商品や食品が集まり、大盛況となりました。今後も開催を予定しています。その際は、ぜひお立ち寄りください。

◀これまで「長野原町と嬭恋村で咲く季節の花100選」写真展示会を開催していましたが、今回は3/1（火）～3/31（木）の間「春の花100選」写真展示会を嬭恋村地域交流センターにて開催予定です。

春の花100選 写真展示会
 期間：令和4年3月1日（火）～3月31日（木）
 会場：嬭恋村地域交流センター 9:00～17:00開館
 （嬭恋村鎌原494-45）

発行：浅間山ジオパーク推進協議会

Mt. Asama Geopark Promotion Council
 制作担当：広報・観光委員会
 〒377-1524 群馬県吾妻郡嬭恋村大字鎌原494-45
 TEL/FAX：0279-82-5566
 URL：www.mtasama.com
 E-mail：asama-geo@ebony.plala.or.jp
 Facebook：www.facebook.com/asamageopark

ガイドの受付しています

「浅間山北麓ジオパークガイドの会」の認定ガイドによる案内の受付をしております。ご希望の方は、左記、推進協議会事務局までお申し込みください。

【料金】*ガイド1名あたりの値段
 平地：半日6,000円 1日12,000円（参加者11名以上はガイド2名）
 軽登山：半日10,000円 1日15,000円（参加者8名以上ガイド2名）
 登山：1日25,000円（参加者8名以上ガイド2名）

編集後記

Vol.19のジオジオ豆知識において、誤字脱字がありましたことをお詫び申し上げます。今後、このようなことがないように、十分気を付けて参ります。

浅間山北麓ジオパークに咲く代表的な春の草木花を紹介するよ

❖舞鶴草 (マイヅルソウ)



山道の脇に群落を作り、小さくて可憐な白い花を咲かせる。葉は大きな楕円のハート型。葉脈がはっきりしていて、葉先に向けて大きく湾曲している。上から見ると鶴が羽を広げて舞う形に見える。

花言葉は「清純な少女の面影」

《見られるところ》 浅間牧場、熔岩樹型、浅間園など

❖片栗 (カタクリ)



ピンク色の花が下向きに咲く。種子が地中に入ってから平均8年目に葉を出し開花。花の後は葉が枯れて次の春まで球根のまま休眠することから、ヨーロッパでは「スプリング・エフェメラル (春の妖精)」と言われている。

花言葉は「初恋」

《見られるところ》 長野原町林地区など

❖岩鏡 (イワカガミ)



日本固有種。3～10個の房で淡紅色の花が咲く。花の先端は細かく裂けている。岩場に生息し、光沢のある丸い葉が銅鏡のようであることからこの名がついた。多年草で葉は1年中枯れない。秋は紅葉し、雪の下で越冬する。

花言葉は「忠実」

《見られるところ》 浅間園、鬼押し出し園、熔岩樹型など

❖石楠花 (シャクナゲ)

大きく豪華な花びらをつけることから「花木の女王」と呼ばれている。寒さに強い常緑広葉樹。寒い季節は幅広い葉を針葉樹の葉のように細長くして寒さを乗り切る。低木なので「尺なし」→「しゃくなげ」となった説もある。

花言葉は「威厳」

《見られるところ》 浅間高原シャクナゲ園など (東京ドーム10個分の敷地におよそ15万本のしゃくなげが咲き誇る。)

～浅間高原シャクナゲ園で見られるシャクナゲ～



アズマシャクナゲ
最初に咲きます。ピンク色の花を咲かせ、葉の裏は灰褐色の軟毛が生えている。
(5月頃)



屋久島シャクナゲ
蕾は赤く徐々にピンク色～真っ白に移り変わって咲く。花の形が鐘形に近い。
(6月頃)



ハクサンシャクナゲ
真っ白で可憐な花。花冠の内側に淡い緑色の斑点がある。
(6月以降)

❖紫躑躅 (ムラサキツツジ)



ミツバツツジのことを地元 (長野原町) ではムラサキツツジと呼ぶ。やせた尾根や岩場などに生息する落葉低木で、枝先に3枚の葉をつけるのが特徴。細い枝に鮮やかで小ぶりの花をたくさんつける。

花言葉「節制」

《見られるところ》 吾妻溪谷など

❖蓮華躑躅 (レンゲツツジ)



蕾 (あるいは花) が輪状に並ぶ様子が蓮華 (ハスの花) に見えることから名付けられた。花が大きく日本のツツジ類で最大級。毒があるので動物は食べない。群生する場所ではオレンジ色に埋め尽くされる。群馬県の県花。

花言葉は「情熱」

《見られるところ》 湯ノ丸高原 (国の天然記念物 昭和31年5月15日指定)、浅間牧場など

❖銀竜草 (ギンリョウソウ)



全体が透き通った白色で、腐生植物としては有名なもののひとつ。森林の林床に生え、共生する樹木が光合成で作っている有機物を菌経由で得ている。花茎は多数集まって出て、枝分かれせず先端に1輪の花をつける。

花言葉は「そっと見守る」

《見られるところ》 嬬恋鹿沢休暇村など